

平成18年度 施政方針に対する質疑

～～代表5名の議員が質疑～～

定例会第1日（2月14日）の本会議において、市長から平成18年度施政方針が表明され、定例会第2日（2月17日）の本会議において、施政方針に対する質疑を行いました。

質疑の要旨は次のとおりです。

白石市博物館建設
一心会 鈴木 康弘

〔質問〕白石市博物館建設構想委員の答申を受け、市民団体が早期実現に向けた活動が活発化しているが、博物館建設の今後のスケジュールをどのように考えているのか伺いたい。

〔答弁〕本年4月、社会教育課に博物館建設準備室を設置、6名による博物館建設委員会を設置する予定である。

文化財総合調査の継続とリスト作成。常設・企画展の計画書作成。寄贈寄託物件の真贋調査、薰蒸及び真打ちを考えている。

建設時期は、財政面からの慎重な検討など、中長期的展望に立って考えていきたい。また、市民の意見を聞くため協議会の設置も考えていきたい。

建設委員会の審議等を踏まえて、施設の規模や内容を吟味検討してから、建設場所の

検討などを行うことになるが、時間をかけて検討し、市民の動きに呼応していきたい。

〔その他の質問〕

①白石城と中心市街地について

②市道原線について

農業の振興について
同心会 山谷 清

〔質問〕平成18年度から新たな市単独事業「地域農業いきいき推進事業」を創設するところがあるが、認定農業者（担い手）、集落営農をどう図るのか。また、農地、水、環境保全向上対策については、対象となるのは集落で適切な保全管理が求められることとなるが、集落座談会が予定をしていると思うが、いつから説明して行くのか？

昨年度から農業への参入をした、社会福祉法人の農業への支援策の考えはどう図って行くのか伺いたい。

〔答弁〕社会福祉法人への支援策は、特別な支援策は考えていない。一般の農業者に対する支援と同様に考えている。

地域農業いきいき推進事業は、各集落や農業者団体などで行う、地域農業の活性化に資する活動を支援することにより、集落営農の組織化などを促進させるため、平成18年度に新たに創設するものである。

平成19年度からの新たな経営安定対策に対応すべく、認定農業者を初めとする担い手、水稻生産者については、平成18年度産米の生産調整について、主食用米の作付目標面積配分率を66・3%から90%へ傾斜配分を行うなどの支援を実施する。

農地・水・環境保全の支援策は、農業者だけでなく、自治会、学校PTAとかの活動組織に参加し、土地改良区及びJAと連携を図りながら地域への啓蒙を行っている。

〔その他の質問〕

①みやぎ蔵王高原マラソン大会について